

ウオッチング 多摩ニュース

第74号

2016年1月30日
ウオッチング多摩の会

あらためて熟議を求め

十二月議会は新議員を迎え若手議員も増えて早くも3回目の定例議会となり、議会も少しは変わるのかなと傍聴したが全くの期待外れで終わってしまった。

市長も議員も、ニュータウンは世代交代の時にあり、先を見た政策転換が必要と訴えるが、その核心に触れるような動きは兆しさえ一向に見えてこない。

“森”の議論を

多世代・多様な市民が暮らすまちは複雑となり、従来の議会運営では対応はますます難しくなってきた。この変化に対応するにはどういう議会でなければならぬのか。

本来議会は熟議の場所であり、市民の声を反映させる場所のはずだった。ところがここが市行政の方針や政策への賛成か反対かを

多数決で決めるだけの場所となり、私たちのまちが抱える大問題について議論する場所ではなくなってきたしまった感が深い。

それは一般質問において「一本を見て森を見ない」質疑となつて表れる。市民生活に「木」が大事であることは言うまでもないが、貴重な議会の場で優先すべき「森」の議論が行われないうちに私は絶望感を禁じ得ない。議員・会派は市民の代表ではなく、行政統治の機関になってしまっていると言いたくなるほどである。

豊ヶ丘複合館存続問題とは何か

例えば豊ヶ丘複合館存続問題だ。十二月議会中にも「豊ヶ丘複合館第5回市長との懇談会」「公共施設の見直しについてのワークショップ」などが行われた。

前者は豊ヶ丘複合館が市民から存続の陳情があり議会で採択されたため、「今後の方向性を市民と話し合つて」ということで市長自らが地域に出向き話し合っているもの。後者は同じ日にワークショップ第4回として「多摩市の図書館について」「多摩市の公民館の今とこれから」を中島図書館長、古谷関

今号の特集

あらためて介護を考える

3ページ

戸公民館長からの説明と市民のワークショップがあった。私が直接傍聴できたのは2会場だったが、他にも市長、行政スタッフがまち創りについて市民と語り合う場なども多く設けられている。

この懇談会やワークショップを傍聴しながら私はしきりに、議員・議会はこの問題の根底にあるものへ市民と共にどれだけ向き合ってきたのか、と考えた。住民発意による「豊ヶ丘福祉館存続を求める陳情」採択に挙手することでの役割を果たしたとでも思っているのか、とまで思わざるを得なかった。議員が日頃から住民に寄り添い、市と住民個人の間にも少しでも密な関係づくりが出来ていたとすれば、このような回り道を省けたに無駄を省けたのではないか。後学のために猛省を促しておきたい。



カウンターデモクラシー

カウンターデモクラシーについて考えてみる。市民の声を表現する選挙以外の様々な仕組みや手段のことだ。朝日新聞に載ったフランスの民主主義研究者ピエール・ロザンヴァロンによると、代表制は、多数決の民主主義だが多数派は社会のすべてではない。選挙で棄権が増えている今は、多数決方式以外にも社会を代表する方法が必要、ということだ。私はこのことに関連して阿部市長の発言を思い出す。豊ヶ丘複合館の存続の陳情が一票差で採択されたことについて「多摩市にとって重要なことがたった一票の差で決められてしまったいいのか」と言ったのだ。行政の長が多数決の自身に疑問を挟むのはあまり聞いたことがない。議会の多数派を頼ってあるいは多数派工作をして、場合によっては「たった一票の差で」多数派を握って行政を運営しているのは行政の長自身ではないか。その市長がこんなことを言うのは全くのご都合主義と思わざるを得ない。

フランスの政治学者による「代表制の多数決民主主義」への疑問は有権者市民のなかにこそつねに存在する。その場合に「代表」議員の心すべきことは何か。言うまでもなく日頃から住民の意見を熱心に聞き、それを議会

に反映させることだろう。そして熟議だ。時間をかけて議論し安易に多数決で決めていかないことである。

直接住民投票の前に

自分たちのことは自分たちで決める自治・協働が機能するには多様化は必至だ。行政が市民と直接話すのも必要だが、その前に議員はこの多様性に応えなければならぬ。次の時代への課題は山積している。ニュータウン再生方針、公共施設課題として、図書館・公民館・学校跡地・パルテノン多摩・総合福祉センター・新市庁舎等々。

控えている図書館問題、パルテノン多摩など、この際直接住民投票でもとの声も聞こえてくる。自分の一票が持つ意味がどれだけ浸透するかもはなはだ心もとないが、市民が結果は自分の責任であること、を自覚する荒療治の一つとして実行してみる価値はあるかもしれない。直接住民投票をするにしても複雑・多様化する時代の市民への選択肢をいくつか用意することが「多様性」と「参画」を拡げる対応となる。複雑多様化

市民14万人全員が
ウオッチャーであり
サポーター!

する市民ニーズに 대응する政策案が一つであってはならない。

全国的にも図書館問題で住民投票が行われ、その賛否が取りざたされている。

それらを見て思うのは、住民投票の前に議会は代表制民主主義が時代の変化に対応できるように改革をすべきだということだ。



熟議展開を予感させた質問

今議会で多くの議員が「若者が住みたくないまち、魅力あるまちを」と訴えておりそのことに全く異論はない。そのために今と将来につながる多摩市の基本的な姿をどうするかがすべてに繋がっていく。近隣の八王子市、立川市の商業・企業の集積と横並びの政策か、多摩市ならではの文化・芸術・教育の特色ある集積都市とするか。その機軸をどこに置くのかで公共施設計画等は決められるべきだ。

その意味で岩永ひさか議員の「多摩センター地域にグランドデザインを!」の質疑は「森」の議論に繋がりが、その先の熟議展開を予感させるものがあった。

文責 .. ウオッチング多摩の会

神津幸夫

特集 あらためて 介護を考える

求められる介護予防

水野宏 (永山)

ベルブ公民館ゼミで「自分の老後は自分で備える」をテーマとして、5年前から講座やワークショップ方式で近隣の大学とも連携した「ゼミ」や介護施設の見学、最近では老年学(正常老化をめざす)などを学習しています。高齢期の未来をどう生きるかを考えたとき、高齢者は介護保険についての研究は外せないでしょう。

介護について重要なポイントは、「受ける福祉から利用する福祉へ」とポジティブな考え方ですが、不思議なことに私は研究すればするほど介護予防に精を出すようになりました。

このベルブゼミの企画運営は公民館の事業担当者や数人の市民が合議して決めています。まさに市民自治条例に適合しています。次のお二人の寄稿者はこのゼミの運営委員の方たちです。ご参考になると思います。

投稿

行政主体の老人介護で感じること

旧一級ヘルパー 小山笑太

老化した身体は弾性を失わない失望の山だが、促進させるのは介護施設

平成九年に介護保険法が出来たが、果たして要介護者は幸せな人生を送れているのか。

チューブ人間にされ、ベットに縛り付けられている人や大部屋で人がやつと通れる幅しかなく、カーテン仕切りもないようなすし詰め介護室は確かに減ったが、法の精神^{II}身体機能の改善にはほど遠い感がある。寄りかかり人間をますます作っている。

誰に聞いても自分は介護されたい、認知症になりたいなどという人は一人もいない。介護保険を適用される身体機能になると、要介護1どころか、要支援1の段階の人が介護施設に通っている。残念ながら徐々に下り坂を進んでいるような気がしてならない。これが私が措置の時代から二十五年看護・介護現場を見てきての感想である。

ゴムの弾性理論に、新しいゴムは相当ひっぱっても元に戻るが、老化したゴムは少し引ただけで元に戻らなくなり、すぐに切断してしまう。

てしまう。

人間もいっしょではなかるうか。十代、二十代の時からしっかりした自立教育をしておかないと最後まで自立は無理だと思いが、現実にはそのような教育は小学校以来さされていらない。元気なうちはのほほんとしていて、身体機能の衰えが見えだしてから慌てている。

そうなるかと茫然とし、成り行きに任せて下り坂を下ってしまう人がほとんどであろう。当人が認知症と判定されたときの話だが、認知症の判定基準は使うとはいえ、どの施設に決めるかは市行政・包括支援センターの独占支配である。センターは、認知症判定やどの施設にするかの実権を握っていて、当事者よりも、家族よりも、施設の都合に合うように差配してしまうのではないのか。

案内書はあるというが、施設が羅列的に書かれたモノを見せられ、即断出来ると思ってるのか。どのような特徴があるのかは数行の書き込みでどこまで分かるというのか。



スコットランドの対策を見習う

昨年十一月に、NHKの講演があった。スコットランドで行政が当事者の意見を聞くようにさせたジェームズ・マキロップさんをNHKが招聘した。同氏は六十歳少し前に医師に認知症を発症していると診断された。茫然自失している同氏にすぐにアルツハイマー協会からリンクワーカーが派遣された。ワーカーが、一年間掛けてじっくり今後の希望を聞き、本人の希望を叶える方向で当事者支援方を行ってくれた。我が国では、本人の面接は十分程度で介護度やサービス内容を決めるのは大違いである。

マキロップさんの認知力は改善ないし現状維持で十年以上とどまっている。認知症がありと診断されても本人の意思を無視しなかった自治体政府、医療、介護業界があったからであろう。同氏はそれだけに留まらず、自分達のために行政に働きかけを行う運動を始めた。仲間と起ち上げたスコットランドの認知症当事者協会の合い言葉は

“ 私たちは認知症「患者」ではなくて、認知症を生きているだけなんだ ”

“ 認知症施策では「私たちのことを当事者を抜きにして決めないで」 ”

運動の結果、地方政府委員会や議会にも必ず出席を求められ、認知力の落ちてきた人に

でも分かる言葉で話してくれる上、決定にも参加している。

介護施設の成果の公表を

多摩市の介護施設の判断基準のためには、①各施設の特徴をもっとわかりやすくしたパンフレットの作成と、②支援センター毎に毎年の成果の公表を早急にさせることであろう。

老人の声を聞け！である。(老人側もデイベート訓練をしておかなければなりません)



投稿

介護予防とは自律した目標を失わない生活を守ること

高木洋子 (関戸)

自分の人生を考えると、ほとんどの人はライフプランというものをお持ちだと思います。キチンとまとめたものではないにしても、生きていく中で何を大切だと思ひ、どんな生活をしたのかという目標であり希望のようなものです。

ところが長い人生の中で思いがけない事は突然起きるものです。そうなったとき、人はいまままで描いていた人生の目標を見失ってしまうことがあります。たとえばそれは自分が介護を受けるといふような状態になった時です。本音を言えば誰もが避けて通りたいところですが、この世に生を受けた以上どんな人も避けることの出来ないのが現実です。うまく条件がそろえば介護をせずに一生を終えることは可能なのですが、長い短い差はあるにしても介護を受けずに一生を全うできる人はいないと云っても過言ではない気がします。

だとするならば考えるべきことは、なるべくなら短期間の介護であり、良い介護の受け方ということになります。

かつての日本で介護の担い手は嫁であり娘でした。今この超高齢化社会に於いては考えられないことです。そして二〇〇〇年に介護保険制度がスタートしました。介護の社会化が謳われ、介護が個人的な問題ではなく、社会のすべての人の問題として考えていくということになったのです。そのため介護保険には様々な制約があり安易に使われることに歯止めがかかります。しかしながら一番意識の遅れを感じるのは利用者本人ではないかと思うのは私ばかりでしょうか？ただこれには理由があります。

あまりにも専門職や自治体が先行して一般市民には解かりにくくなっているように感じるのは、話されることばは専門用語ですし、一般市民が会おうのは本当に困った状態になってからです。介護保険が介護のすべてを担えるものではないことがわかっていくように理解が届いていないのも現実です。介護保険は介護のほんの一部です。自律した目標を失わない生活を守ることこそ本来の介護予防であることを忘れてはなりません。



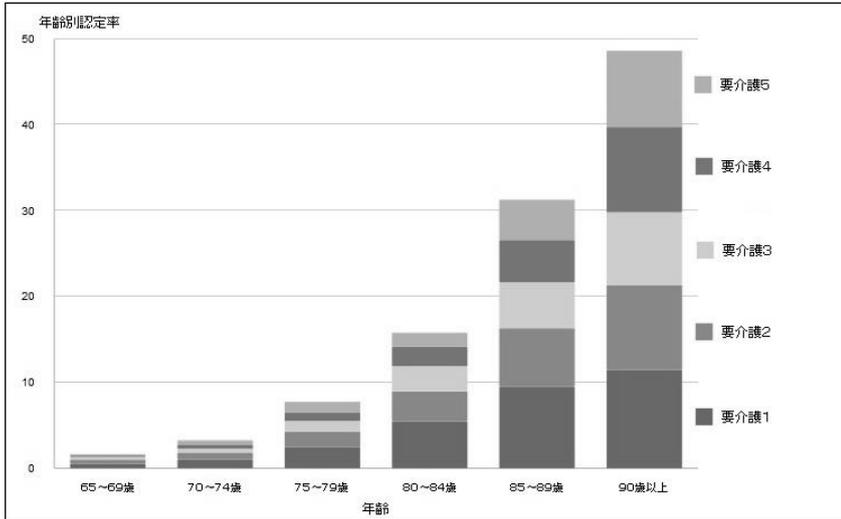
データでみる多摩市の介護

(2013年度「介護保険状況報告」から)

花谷修一

一、年齢区分ごとの要介護認定率

年齢区分ごとの要介護認定率は、六十五～六十九歳で1%程度ですが、当然年齢と共に二次曲線で増えていきます。七十～七十四歳



年齢区分毎の要介護認定率

で3%強、七十五～七十九歳で8%前後、八十～八十四歳で15%強、八十五～八十九歳で32%弱と増加します。

しかしながら、九十歳以上になっても50%以上の人は介護を必要としていないのです。

近年の医学の進歩と介護予防に対する市民のモチベーションを高めれば、この指標は将来的には更に改善されるに違いありません。

要介護認定率＝要介護者数×100／第1号被保険者数(65歳以上の人口)

二、多摩市の要介護認定率ランキング

街に住む人の健康度を測る指標として「健康年齢」がよく取り上げられますが、ここでは要介護認定率の低い順に並べてみたのが次ページの表です。

多摩市は、979市区中の34位
 全国平均17.4%を大きく下回る12.7%となっています。上位には新興住宅地として若い世代が急増している街も多い中、高齢者率が高い多摩市が上位に食い込んでいるのが特筆すべきことでしょう。ただし、この表は、認定の難易度を示すものだとという穿った見方もあります。

一人当たりの平均給付額を、図に示します。
 ちなみに居宅介護・要介護1の場合の支給
 限度額は、16692単位
 サービスによって異なりますが、
 1単位≒10円です。

自己負担額はサービス費用の1割または
 2割ですから、居宅介護の大方の人は限度
 額20%〜30%程度しか使っていないこ
 とになります。

この点からもマイケアプランをたてて、受
 給者自身がよく考えてみる価値がありそ
 うです。

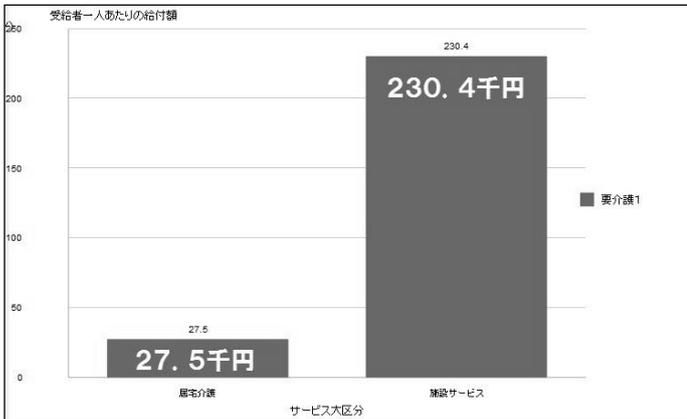
他に、去る11月23日に行われた「介護デ
 ータを市民のミカタで語る」のイベントで使

三. 給付額の差

居宅介護 vs 施設介護 (要介護1)

順位	街	要介護 認定率
1	和光市	9
2	富里市	10.2
3	鶴ヶ島市	10.6
4	北杜市	10.8
5	みよし市	10.9
6	小牧市	10.9
7	守谷市	11.1
8	牛久市	11.1
9	八潮市	11.3
10	四街道市	11.5
11	吉川市	11.5
12	綾瀬市	11.6
13	北名古屋市	11.7
14	越谷市	11.8
15	志木市	11.8
16	鹿嶋市	11.9
17	厚木市	11.9
18	取手市	12
19	ふじみ野市	12
20	幸手市	12
21	坂戸市	12.1
22	日高市	12.1
23	草加市	12.1
24	三郷市	12.2
25	海老名市	12.2
26	龍ヶ崎市	12.3
27	北本市	12.5
28	袖ヶ浦市	12.6
29	あきる野市	12.6
30	上尾市	12.6
31	鴻巣市	12.7
32	蓮田市	12.7
33	三島市	12.7
34	多摩市	12.7
35	結城市	12.7
36	安八郡広域連合	12.7
37	湖西市	12.7

われらデータはウオッチング多摩のホーム
 ページに掲載しています。



給付額の差 居宅介護 vs 施設介護 (要介護1)

入会申込書

氏名
 住所
 電話・FAX
 メールアドレス

■会費・カンパ振込先■
 みずほ銀行多摩センター支店 1197246
 「多摩市議会ウオッチングの会」

■申し込み■
 「ウオッチング多摩」の会 代表 神津幸夫
 〒206-0034 多摩市鶴牧 3-14-2-102 042-372-9496
 HP: <http://watching-tama.com/>

★入会金は必要ありませんが、会報発行等の活動維持の
 ために年会費 2000 円を頂いております。